

いまを生きる 日本舞踊

伝統と革新



泉 徳保



市山 松扇



西川 大樹



藤間 章吾



若柳 吉優人

流派を超えた男性舞踊家集団「弧の会」が 日本舞踊の「今」をお伝えします！

プログラム

- 日本舞踊って？「流派」って？
- 映像と実演を交えたレクチャー
- 舞扇を使ったワークショップ
- 「子宝三番叟」上演
- 「猿蟹合戦盛衰記」(弧の会オリジナル作品)上演

出演 日本舞踊家集団「弧の会」より

- 泉 徳保
市山松扇
西川大樹
藤間章吾
若柳吉優人

常磐津「子宝三番叟」

三番叟にはたくさんの作品があり、それらを『三番叟もの』と称しますが「子宝三番叟」もその一つです。12人の子供を持つ子福者の大名と太郎冠者が、正月に始まり桃の節句、端午の節句、七夕等、冬に至るまで子供達の四季の遊びを踊ります。

素踊りの御祝儀ものとしてよく上演される作品です。

義太夫「猿蟹合戦盛衰記」

ずる賢い猿が蟹を騙したことをきっかけに始まる昔話「猿蟹合戦」。この昔話を元に、古典舞踊にある技法・表現を弧の会ならではの演出で仕立てたのが「猿蟹合戦盛衰記」です。「素踊り」の技法を余すところなく用いて、懐かしい昔話を楽しく表現できたら」と思い、振付・構成いたしました。

猿が持つ柿の種と蟹のおにぎりを交換したり、猿が蟹をめがけて渋柿を投げつけるなど、昔話のお馴染の場面を弧の会ではどう表現するのか……お楽しみください。

弧の会 — KO no Kai —

「日本の踊りの素晴らしさを未来へ繋げよう」という熱い思いから、流派を超えて集まった男性日本舞踊家たちによるユニット。日本舞踊を広く一般へ伝えたいという同じ志のもと1998年に結成されました。「紋付」「袴」「素踊り」を基本コンセプトに伝統の美を現代の感覚で構築した数々の新作舞踊を発表。なかでも2000年度初演「御柱祭」は日本舞踊の新作としては異例の数十回に及ぶ再演を重ね大反響を呼び、今注目の日本舞踊家集団です。

「弧の会」という名前は、円の一部である「弧」を個人に例え、個々の活動が輝きを放ちながら、各々が持つ才能が同じ未来を見据えて集結し、互いに研究研鑽を重ね、さらに大きな光りを放ち、大きな円となるよう……そして日本の大切な文化と云える「日本舞踊」をより多くの人に広めたいという願いを込めて命名されました。

- 総勢12名の中から、今回は5名のセレクトメンバーが出演します。
- 2000年度舞踊批評家協会新人賞受賞。
- 2008年度文化庁芸術祭賞優秀賞受賞。

入場無料
要申込

申込方法：鑑賞希望者は往復はがきに、①住所(郵便番号も)②代表者氏名③電話番号④申込人数(2名まで可)⑤どこでこのイベントを知ったか(チラシ等)を明記の上、〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学総務部庶務課「第10回伝統芸能を鑑賞する集い」係へ。締切は11月5日(月)必着。応募者多数の場合、抽選にてご招待。



お問い合わせ
法政大学 総務部庶務課
TEL03-3264-9223
FAX03-3264-5650
(平日9:00~11:30/12:30~17:00)
東京都千代田区富士見2-17-1
shomu@hosei.ac.jp